

一通の書簡から

大箕正之

豊門会館二階の小壁に一通の書簡が掛けられています。發送人は東京木挽町に住む実業家森村市左衛門。受取人は富士紡小山工場長和田豊治。明治二十六年七月十九日の日付けです。奇しくもこの便りが書かれて今年でちょうど百年ということになります。

莫大な資金と多くの困難によつて東洋一を誇る富士紡がこの町に建てられたのは明治三十一年のことでした。以来、躍進と困難、栄光と苦境のはざまにあつて世紀を超える年月をこの町とともに生きてきました。

さて気になる書簡の中みはあとにして時の流れをもどしてこのふたりに心と目を向けてみたいと思います。

### 市太郎誕生

冒頭 書簡の発信人として書いた市左衛門は天保十年(1839)江戸京橋の馬具商の長男として江戸京橋白魚屋敷に誕生しました。まだ天明の飢饉後五十年ということと世の中は不安定なときでした。幼名市太郎は生まれつき大変な病弱で母親に面倒をかけた。がその母松子も二人の若さで早世します。市太郎六歳の年でした。やがて後妻の茂登子が嫁いできますと次々と年毎に弟妹が生まれ市太郎もその面倒やら寺子屋通いと忙しい毎日でした。当時森村家は多額な借財があつて楽な暮らしではなく市太郎も十三歳になるのを待つて日本橋の呉服問屋近江屋に奉公にできました。これがまた大変な仕事でした。早朝から夜八時くらいまで三、四十キロの荷物を背負つて歩く重労働のため体を壊して三年で返されてしまいました。

安政二年(1855)市太郎十六歳の年、江戸はマグネチユード六、五という直下型大地震に襲われ死者二万、おおくの家屋倒壊、火災と江戸は壊滅状態でした。市太郎も借金で建てたばかりの家をうしない一家は途方にくれました。家族六人が生きていくためにはなんとしても市太郎が頑張らなくてはと災害地の片付け人足として働きました。作業をしながら焼け跡に落ちている釘を拾い夜になると街角に蕪二枚をしいて夜中の十二時まで商い二百文、昼の収入と合わせて七百文(現七千円)になったといひます。彼は安い玄米を買つて徳利について精米にして粥に炊き大人は二回、子供は三回わずかな沢庵で食べたと言ひます。こうした辛苦の甲斐があつてわずか一月で京橋鐘端に店を借り焼残りの雑貨などを仕入れ商いをはじめました。

一年後には豊町に衣類 陶器などの店を開くまでになりました。

### 新しい時代

市太郎が汗まみれになって活動している二、三年の間に日本を取り巻く情勢はめまぐるしい変化を見せていました。なんといつても市太郎にとつての驚きは横浜開港でした。横浜まで往復六十四キロの道を大八車で仕入れてきた舶来品はあつという間に売れてしまいました。さいわい横浜に知人がいて商品はたやすく手に入りました。主な物は中古の衣服靴 書物 時計 ランチャなどの布地 毛布 ピストルなどでした。

大河ドラマ 新撰組が始まりました。一月の今現在 前回には近藤勇と沖田総司が大八車をひく場面が出てきましたが 大八車をひく市太郎と重ね合わせて楽しみました。

森村家は代々中津藩十萬石奥平家出入りを許されていましたがから鉄砲州の藩邸にも出かけて商売をしていました。ここでも珍しい洋品ということで大評判でした。

ちようどそんな頃の安政五年(1858)に此処で福沢諭吉の蘭学塾が開かれ藩子弟の教育が行なわれることになりました。在る時 桑名という家老が市太郎を諭吉に合わせてくれました。この二人の出会いがこのあとさまざまに二人の人生に関係していくことはこの時はだれにもわからないことでした。

### 思わぬ宝舟

安政七年(1860)幕府は日米修好条約正使として新見正興に派遣を命じます。市太郎と親しかった新見は米国への土産 一行八十人の正装陣羽織 袴 略服などの調達を市太郎に命じました。土産は金銭にこだわらないということで花簪 錦絵 飾り櫛 扇 織物などいずれも当時最高の技術で作られたものばかりを立派な箱につめました。一箱二五両(現二百万)と言う豪華なものを二十箱が用意されました。

いうに及ばず市太郎の利益は莫大なものでした。これらの荷物と数名の日本人を乗せた船は、アメリカ差回しの護衛軍艦

ポーハタン二千四百十五トン、アメリカの持つ数隻の軍艦のうちの二番目に大きな軍艦で大砲九門を備えていました。ドラマ新撰組の冒頭でこの大砲が火をふいて轟くのに近藤らの驚くシーンがありました。

実はこのポーハタンはあまり知られておらずこれより五日前に同じ品川沖を船出した威臨丸のほうは有名です。この船には正使のほか艦長木村喜穀 副官に勝海舟 通訳ジョン万次郎 またかねがねアメリカ行きに熱意のあつた福沢は頼んで艦長下僕として乗り込んでいました。サンフランシスコ往復七十日の旅は彼らにとつてもまた日本にとつても大きな意味を持つ旅であつたと思います。またこの国家的大行事に参加した市太郎にとつては大変に得る事のある、彼の生涯を決定する経験でした。しかしそのなかで市太郎が終生消えない思い出がのこることになります。それは幕府に命じられて渡米費の両替の失敗です。彼も幕府同様に国際通貨には全くの無知であつたために質の悪いメキシコドルで換算され千両箱、三十箱の銀 金貨は価値のない粗悪な銅貨にごまかされてしまいました。当時市太郎始め日本にはこれを見抜ける人物は一人としていなかったということです。このことを大きく反省した市太郎は外国貿易に命をかける決心を固めたと言います。

おりしも二十二歳の春を迎えた市太郎は七歳下のキクと結婚。文久元年(1861) 赤飯五斗に二十三両をかけた法外に豪華な結婚式だつたといひます。次の年 新撰組は幕府から結成許可を受けました。

天保とか 文久とかいう時代はずつとはるかに遠い時代とおもいがちですが たかだか百五十年ばかりの昔です。私の大叔父がこの年に下総佐原の山崎家に養子に出た記録があり そんなことと合わせて考えると年月の隔たりにも親しみがわいてくるものです。

### 戦雲の下で

天下をすつぽりと戦雲が覆い江戸の町は騒然としていきました。尊皇倒幕の嵐が吹き荒れ、明日にも戦場になると言う事で大名や藩士たちは家具や装飾品をただ同様に売り払い帰国するため懸命でした。市太郎は飛び回つてただ同然に買い集める毎日でした。また一方では武器を欲しがる藩も多く夜寝る間もないほどでした。

幕府からの武器注文も増えました。彼は冷静に時代の流れを観察して適格に次ぎに来るものを感じとり読み取りながら、どちらにもつかず注文

に応じていたので身の危険を感じるようになりました。そうすると前から知り合いの板垣退助が彼の駐屯している市谷によび兵器廠ヲ建てさせて武器弾丸をつくらせました。

さいわい勝 西郷会談によつて江戸は戦火をまのがれました。しかし官軍にとつて屈辱をはらすための戦闘はぜひ必要でしたしその相手も會津ということとは決定的なものでした。

薩 長 土 肥の東軍。つまり官軍は幕府軍を朝敵 賊軍に仕立てて東征とし総督には有栖川宮を東海道をすすませ 東山道を参謀に板垣退助として進撃させました。その目的は会津打倒 壊滅でした。軍兵数は一万余 壮絶な若松城総攻撃は落城前の三日間(明治元年九月二十二日落城)に集中し包囲した50門の様式大砲が昼夜二千五百発の砲弾を城内に打ち込んだと言います。僅か三千にも満たない兵と数えるほどの火力で戦つた中には新撰組の土方歳三の姿もありました。

これより少し前 会津滝沢の板垣退助からの急使が市太郎に届きます。銃砲 弾薬深まる季節に備えての衣服の調達運搬でした。市太郎は即座に横浜で調達し 三十人の人足をそろえ公用品運搬ということで草加那須 白河 猪苗代と進み母成峠辺りの激戦地では何十人ともしれない犠牲者に驚きます。いずれも衣服は剥ぎ取られ殆んどが手足を切り取られた農民でした。瀧澤の本陣で板垣に荷物を渡し通過してきた有様を話すと板垣は涙を流して労をねぎらい「帰りに怪しまれるような事があつたら板垣だといつて通れ」と言つたと言います。

市太郎はこの地の宮森呉服店に一泊、飛んで帰つて注文された数丁のスペンサー七連発銃と弾薬を仕入れて会津の前線に向かいました。

しかし二度目に会津についた日、戦いは終わつていたと言います。

会津の戦乱の始まる三か月ほどまえ江戸上野では蜂起した幕府軍にゆかりの彰義隊千人に対して二千人の西軍が砲撃をかわしたが、アームストロングを持つ西軍の圧倒的な勝利でしかも一日で終わりました。

## 明治の世

会津戦争のさなかの九月八日 明治と時代は変わりました。

いままでさまざまながらみに縛られていた商人の世界はすっかり自由になりました。二十九歳の青年実業家森村は製塩 養蚕 鉱山 北海漁業と各地に進出し事業を起こしましたがいづれも経験不足と言う事で失

敗今までにえた資産の全ては消え おおきな借金に苦しむ事となります。

しかし天は彼を見捨てる事をしませんでした。新政府が何事にも西洋化を重んじる中で 特に騎兵隊に重視し改良馬具に力を入れこれ由市太郎に命じました。(政府御用商人)です。大工場を建てて三百人を雇って生産したのですがまにあわなかったといひます。

市太郎は当時 銀座に(森村テーラー)と言う洋服店を開いていました。が此処にも思いもよらなかった軍服の注文が殺到しました。借金の山に苦しんでいたのもつかの間の事でまたも巨万の財をなし、どん底からふたたび頂点へたつことになりました。

明治六年には長男が誕生 明六と名づけられました。森村テーラーも順調に伸び鹿鳴館にとう紳士 淑女にとつてなくてはならぬものとなつていました。

ある日 市太郎が軍へ毛布の納品にいくとそこの上官から十パーセントのリベートを要求されました。このことに憤激した彼は軍関係の仕事に見切りをつけ(政府御用商人)には一切関与しないと決心します。

#### 異母兄弟

十四歳歳の離れた豊に福沢の学僕になつて英学を勧めたのは慶応二年(1866)のことだったといひます。明治四年 三田に慶応義塾が設立すると入学します。優秀な成績で卒業後は渡米のチャンスを得らつて母校に勤めていましたが 福沢のすすめもあつて豊は単身 渡米しました。明治九年三月 二二歳だったといひます。なお この直前兄弟ふたりは銀座四丁目の森村テーラー二階に輸出入貿易会社(森村組)をたちあげました。市太郎三十六歳。横浜でメキシコドル失敗 貿易を決心して十六年がたつていました。

ニューヨークについて日本最初の領事官 富田鉄之助をたより同志五人で(日の出商会)を設立、日本から送られてくる品々を商い次第におおきくなつていきました。四年後には(森村組)ニューヨーク支店を独立しますがその苦心には計り知れないものがあつたといひます。

日本から送られてくる物の中で評判のよいものは陶器でした。日本趣味の陶器はいくらでも売れました。丁度その頃日本では皇室を始め軍関係、ホテルなどで洋食が普及、純白磁器の需給が高まつていましたので

その勉強をかねて市太郎が渡米。兄弟は五年ぶりの邂逅でした。

こののち市太郎は欧州白磁を手本に名古屋を中心に工場を建てて活躍します。則武カンパニー イナックス トートーなど やがて名の知られる大企業がそだつていきました。

しかし 彼が製陶事業につき込んだ資金は莫大な額で常に赤字が累積していたと言います。が、森村組としては開設以来ただのいちども赤字になったことはありませんでした。これはニューヨーク支店の事業の好成績のためだといえます。

明治の半ばを過ぎる頃から森村組の各界への進出は盛んなもので陶業を始として川崎重工 製鉄 東洋汽船 保険会社 紡績 製糖 ゴム 林業などの企業に出資し莫大な利益を得ていました。特に貿易については太平洋上 一日として森村の荷の浮かんでいない日はないといわれるほどの盛況ぶりでした。

#### 産業立国と ただの水

咸臨丸で米国から帰った勝はその後の海外視察で欧米にならつてわが国も産業をおこして国力を確かな物にしなくてはならないと力説しました。豊が会った富田も帰朝するとナイヤガラでみた水力発電のことをあちこちで話しました。

大蔵主税局長だった神鞭知常も水力利用を奨励 先頭になって「ただの水」で産業立国をと(水力組)が結成され 手始めに、富士鷹岡に富士製紙を建てました。水力で僅か五百馬力の動力を得て日本発のパルプによる製紙工場で日本印刷界に革新を起こしました。この資金の殆んどは森村が出資しました。

これに大成功した彼らは続いて富士の名を負う工場の建設を目指しますが当時開通したばかりの東海道本線の列車の窓から豊富な小山の水を発見したのでした。念入りな水量テスト、土地の買い付けなど建設までの至難の日々が過ぎ、山のような用材が組み立てられるのは日清戦争後のことでした。二百五十万という当時は見ない巨額で立てられる紡績工場は大変なニュースでした。勿論多くの株主の中で森村は五十円株を二千二百五十株持つ大株主でした。

さまざまな問題も片付いて米国モルガンスミス社のマルミック型原動機がとどろき英国アサリー社紡機のリズミカルな音で操業が始まったのは、予定に大きく遅れた明治三十一年秋のことでした。

スタートはしたもののどうしたことでしょう。世の人の限りない期待と膨らむ夢 出資者たちの願望とは逆に一向に成績のふるわないスタートに心配 不安の声が日増しにたかまつていきました。

株配当金は二年間ゼロ 重役たちの衆議で丁度そのころ東京ガス紡績や小名木川綿布の建て直しに成功した実業家日比谷兵左衛門に助けを求めました。

### 富士紡株 百株

建て直しするために入社した日比谷には社員としての資格として百株の富士紡株が必要でした。森村は自分の持ち株百株を彼に贈りました。日比谷は小山に通って立て直しの準備をはじめました。しかし老齢名日比谷にとって大変な負担でした。何より往復八時間もかかる交通問題には解決策はありませんでした。とてもむりだと知った日比谷は近年鐘淵紡績の立ち直しに成功した青年実業家を思い出しました。

青年実業家 和田豊治は文久元年大分中津藩の下級武士に生まれ福沢をしたって慶応大学へ、卒業同時に渡米。帰朝すると銀行の抵当になっている鐘紡の建て直しに尽力しむごに鐘紡復興を果たしたのでした。

日比谷と森村のたつての願いいいということとで和田は母と妻を連れて小山に住まいを移しました。六合山荘から工場にかよい改革に勤めました。その第一歩は工女の日給十六銭五厘を二十二戦にする事から始まり教養のための学校 厚生施設ということとで運動場 病院を完備しました。こうして仕事に対する意欲を従業員たちに持たせることにかけては天才であったのです。(偶然なことですが今読んだ朝日の朝刊に浜松、カネボウ繊維休止の記事が出ていました。驚きました。およそ百年前にこの鐘紡を建て直し、その腕まえを認められて富士紡績建て直しまでの和田の活躍について拙稿が進んだ時のニュースでしたから。偶然とはいふもの不思議なことですから本題に戻します。とくに年少で働きに来ている工女たちの為には裁縫 茶道華道の他一般的な勉強などの学べる時間、施設を用意。運動 娯楽も取り入れました。こうした社風の変革もあって赤字続きだったのが次の年には借財を返して八千円の黒字。また四年のあとには百五十万円の黒字となり完全に蘇生したのです。

この建て直しの最中の明治三二年 森村を悲劇が襲いました。慶応大を終えて渡米 森村ブラザーで活躍中結核にかかり帰国し大磯で療養中

だった名男明六が急逝したのです。二十六歳と言う若さでした。

しかし一と月もしないのに悲劇の大波が森村を飲み込みました。弟豊の死でした。豊は商用で帰国中の突然の死でした。病は癌でした。森村の悲しみは思いに余りあります。若くして渡米しまんぞくな食事もせず昼に腰掛にした箱に藁くずを詰め込んだベットで寝る、そんな苦勞に花がひらきこれからと言うときのことでした。兄弟が離れて暮らした二十三年でしたが、その間に豊は四十数回の太平洋往来(この時間、実に三年半にあたる)をする活動振りでした。

この頃は米国に日本製のコーヒー茶碗を輸出して大当たりして巨万の富をえました。そして名古屋にやがて世界のブランドになるノリタケの設立が始まり、森村は筆頭株主として三万を拠出しています。

業績はいよいよ拡張して川崎造船をはじめ神戸、東洋などの造船業やマレーのゴム園経営にまで森村組の活動が拡大します。

しかし、どれもが順調というわけではなく商工会議所、初の所長渋沢栄一に助けられる事も多かったです。

#### 森村市左衛門の支援

明治二十七年 市太郎は六代目森村市左衛門を襲名していました。

長男と弟のふたりを一月もしないで失った森村は運命の非情さに向ちめされますが、やがて立ち直って豊明会という文化、慈善事業へ寄付援助する団体を創設します。これはふたりの慰霊のためです。この団体の最初の支援はアメリカ帰りの成瀬仁蔵がよびかけた日本女子大設立の支援でした。三十万と言う巨額の募金もさることながら、そのころはこうした詐欺も多く危ぶみましたが皇后二千元、三井の土地五千五百坪

岩崎の教室の寄付などで安心し、まず破格の三万円を、ついで女子寮「豊明寮として今も使用」日露戦争軍艦寄付に予定していた五万五千元で付属幼稚園、小学校を建設のために寄付。その後も土地、教具、職員、の洋行費など総額六億(現在)にもぼる支援を惜しまず会計の渋沢栄一を驚かせました。

公私の別なく支援をしない大学はなかったばかりか自宅に小学校、幼稚園を建てこの発展としての森村学園などは今も横浜緑区のこりります。

彼がした支援は数え切れませんが芸術家にもおよびます。靖国神社に立つ大村益次郎(上野戦)で彰義隊を撃滅の銅像は明治政府お抱えのイタ



リー人ラグーザによるものですが、その一番弟子が大熊氏弘というひとでした。森村は家族の像や知人の像を作らせました。今は台座だけがある豊門館前の洋館いりぐちのものも、かつては大熊のつくった日比谷兵左衛門の像の台座でした。

昨年は北里柴三郎生誕百二十年と言う事でいろいろな催しがありました。この北里にも森村は大きな支援をしています。八年かかって東大を出た北里はコッホに師事しましたが、やがて彼は祖国の医学発展の為にとかえつてきました。しかし、政府はつめたくこれに対しての後援はしません。そこで福沢が土地を森村が医療器具代五千円の寄付をしました。明治二十六年のことでした。

当時、日本では結核が猛威をふるっていました。この対策に日本初の結核療養所(土筆岡養生園)を白金三光町の福沢の土地に建てる事になり、森村もまた五千円の支援をしました。大変な盛況でしたが明治二十六年東大管理下におかれる事となると北里はこれに猛反対、部下とともに総辞職をしました。北里は養生園での大きい利益で今度はずぐ近くに北里研究所をたてました。日本唯一の私立医学研究所で大正四年のことでした。感染症制圧と生命科学の時代をひらくために奮闘する熱意に打たれた森村は福沢とともに支援をしていきました。

東京四谷は江戸時代、江戸城の最前線としての木戸を立て多くの警備兵を常駐させたところでした。明治になっても広大な大名屋敷のあとには軍の施設としての弾薬庫、兵舎、練兵場になっていました。慶応大が医学科を開設する大正六年から昭和三年まで北里は此処の長として勤務し実績をあげました。私ごとで申し訳ありませんが、安政三年産まれた私の祖父について少しく書かせていただきます。祖父は私の明倫小学校五年生になるまで生きてなにかと私に感化を与えてくれた人でした。若干、大志をもって彰義隊参加、敗戦後は伯爵柳原家愛子姫に仕えた人です。愛子が大正天皇生母とされると祖父の勤務も皇居、日光葉山各御用邸への供奉と多忙になりました。すまいは四谷大番町で慶応病院かかってここは準皇族柳原邸の隣接地でした。この二月なかば偶然ここを訪ねる機会に恵まれ祖父、父の住んだ住まいの跡に立つことができました。四谷に住む人たちは四谷大番町の門を構えた家のつづく静かな町並みやここに住んだ福沢、北里を誇りとしていると最近発行の四谷の広報誌で大熊誠氏(おおくまさんはダイクマ社長)が述べていました。

大番町や慶応病院またそれに繋がる森村 福沢らをおもうとき 同世代を同じ町内に住んだ祖父たちにもその感慨はしとおおでした。

### 栄枯は移る

和田のなみなみならぬ献身的な努力によって奇跡とまでいわれた富士紡の復興は単にそのみにと止まらず、新設や他社との合併を繰り返して躍進するうち富士紡十年の記念式が計画されます。第一の功労者として会社は森村の銅像を建てる事を決めますが森村は断固として許しませんでした。重役会は工場正門に架かる木橋を鉄製とし森村橋と命名する事にしてようやく承諾をえました。

鮎沢川に架かるこの橋は四十メートルのトラス橋で曲線が美しく鋼材はすべてドイツから取り寄せて石川島造船が明治三十九年に作りました。斜材のアイバーも美しく形づくられているのは、工場正門をかねるということもあつてのことでしょうか。当時はさまざまなデザインで裝飾されていたと言う部分も百年という歳月に今は見ることができません。また大変に珍しいことだそうですが橋には二枚の銘版が取り付けられています。設計者は京都大土木工学科を三年前に卒業したばかりの秋元繁松技師だと言う事もわかります。この森村橋は皇居二重橋などとともに日本鉄の橋百選に選ばれています。

大正四年 森村は半生の業績が認められ男爵の爵位が授けられました。芝高輪に六千坪という広大な屋敷を持って暮らしていましたが 暮らしぶりは質素なものだったといえます。もともと森村家は無宗教でしたが晩年の彼は仏教を信仰しいくつかの寺も建てました。しかしどうしたわけか急にキリスト教に転向し洗礼も受けました。

大正八年秋 板垣退助の死去が伝えられて半月後の九月十一日夜 八十一年の生涯を終わりました。いよいよ最後が近いと知ると家人の助けを受けて仰向きに寝たまま「精神一到宇宙貫」としたため和田豊治に残したと言います。遺体は北里が解剖し桐ヶ谷葬場で火葬され青山墓地に葬られました。

富士紡三門の中核だった森村が世を去って五年後、和田豊治が六十三歳で世を去りました(中津の下級武士の家に生まれて祖母に読み書きを

習い十歳になると家塾にはいり四書五経を学び十五歳で中津中学に入り十八歳ではいりますが父が死去、貧しさのため苦学 東大医学部を目指したが失敗明治十四年(1881)慶応入学 卒業後は渡米します。帰ってくる日本郵船三井 カネポウ建て直後 富士紡時代をむかえます。

農村であつた小山は富士紡発展で商工業都市的な変化を遂げつつあり二か村にまたがる富士紡にしても不都合が生じてきました。そこで和田などが中心となつて大正元年二か村の合併を計り小山町が誕生しました。このとき和田はかつて建て直しの功により贈られていた株券百株を

小山町の基本財産として寄付しました。彼は常に地域住民と従業員のための文化 教育 保険に心を向けてきました。大正十三年和田ら十五名の有志によつて財団法人豊門会館が立ち上がりました。

図らずもこの年和田が急逝しました。このため東京向島の邸宅が寄贈され小山に移築されることになりました。

江戸時代の地図をみるとここ向島には大名の下屋敷がいくつもありました。自然にめぐまれて閑静な土地が下屋敷「セカンドハウス」に向いていました。和田は鐘紡時代此処に広大な土地と邸宅を購入しました。一万坪にあまるこの屋敷には一面に海棠が植えられていて(海棠園と呼ばれていて有名でした。此処に建つ百二十六坪の成島筑後守の邸宅が清水組によつて解体 運送 移築されそのままの姿で再建されました。命名は富士紡三門と称された森村 日比谷 浜口の名の門と和田の豊を取つてつけられました。

この建物の建設と前後してこの一角には富士紡によつてグラウンド テニスコート 遊園地など五千四百坪にわたつて作られますが この設計には わが国初の公園である、日比谷公園を作つた東京公園技術長猪下清があたりました

文化財としての価値をもつ会館をめぐる庭園も彼によるもので狭い庭であるのに借景をうまく取り込んだ回遊式庭園です。庭の中央には和田氏に小山町が贈つた朝倉文雄の手になる遺徳顕彰碑が建物 庭の景観に興味を添えています。

平成十六年二月十日

完

富士紡績と小山町

大箕正之

高校生の皆さんにとって「明治維新」ということばはどんな風に聞こえるでしょう。第一に随分と遠い時代の出来事のようにおもわれる人が多いことだと思いますがどうでしょうか。実は私を可愛がってくれた祖父は安政3年生まれの人で十代で戊辰の戦争を体験、時を移さず「維新」の日を少年として生きた人で政情不安ななか彼は今NHKの人気ドラマ「花子とアン」の舞台にもなっている伯爵柳原家に勤め、のちに宮内省調度寮に終生勤めた人でした。緘口令もあつて多くのことは話さなかつたといいますが今出来ると言うなら色々と尋ねてみたいものです。そうしたことから明治とか(明治維新)といったことばには大きな違和感はなく短い大正を挟んだ懐かしく親しみさえもおぼえるものです。

維新というと世の中すべてがガラリと変わったというようなものではないようです。熊本のある村の有力者の文化10年(1813)から明治20年(1887)まで75年にわたる詳しい村の出来事を記した「ある村の幕末 明治」という本が出版されましたが、世の中が変わっていくということとはなかなか大変なことです。西南戦争の終わるころちようどこの日記も終わっています。克明に書かれた上からは75年のこの村は決して豊かな村ではなく、むしろ貧しく村でしばしば不作で困窮する村だったようですがそんな時はみなで助け合い、励ましあつての年月だったといえます。

## 豊かな水

明治20年ころ、小山を流れる谷川に毎日のように見たことのないようないでたちの大男が2、3人の男達とさまよい歩く姿が村人たちの噂になっていました。洋服すら珍しい時代に帽子をかぶり、おまけに洋服、ゴム長靴姿とはほんとうに異様で怪しげな姿でした。



不思議な格好で見たことの無い機械を流れにいたり水車をまわしたり大声で話し合ったり、村人にはまるでキシタンバレンが訪れたような噂と騒ぎでした。一体、この魔法使いのような人たちは何をしに何処から来た人たちなのでしょうか

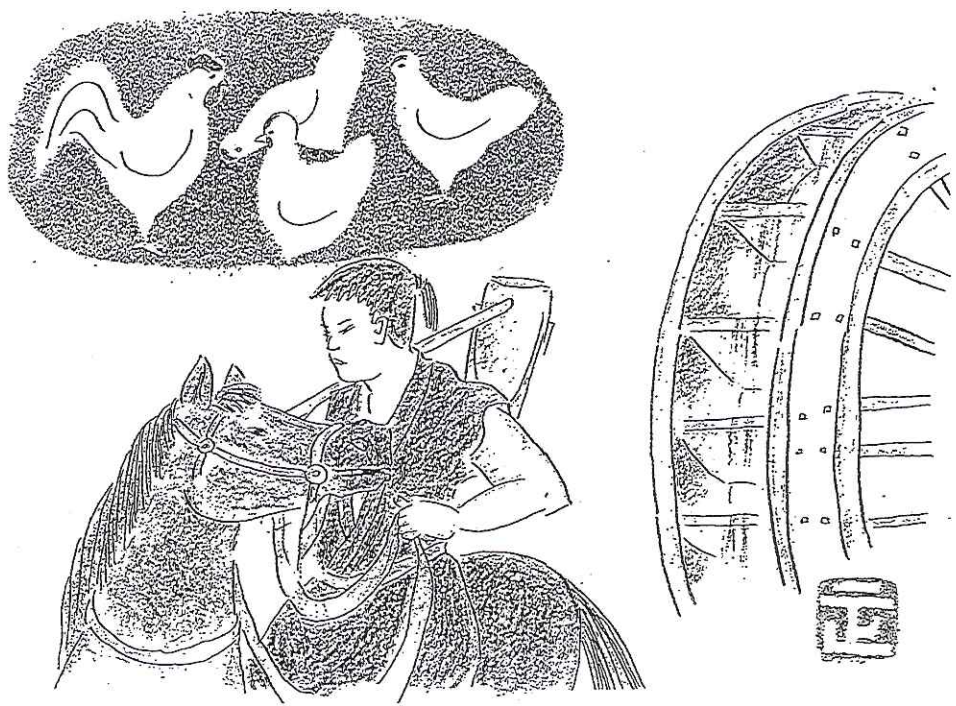
明治22年 東海道本線が小山を通る

よくなるころ「富国強兵」をとねえる明治政府のもと、各所に産業がおこりま  
ず。特に欧米の視察から帰った勝海舟は  
(産業立国)をとねえただの水の利用を強  
くさげびました。これに賛同した実業家  
たちは競って水力を利用した工場を建て  
ました。中でも財力屈指の森村市左衛門  
らによる(水力組)は日本最初のパルプで  
洋紙をすく富士製紙工場建て大成功をし  
しました。工場建設で富士、東京を往復  
する彼らの目に焼きついてしまったもの  
が車窓から見える小山の豊かな水でした。

巨額250万

森村らは早速この(ただの水)を利用して東洋一といわれる紡績工場をたてることに決まりました。

見たことのない格好をして川をさまよっていたのはこのために一日のなかでの流水  
また季節による流水量の変化を調べていた磯長得三でした。この人は嘉永2年(184  
9年)薩摩に生まれ14歳の年に父親とともに薩英戦争を経験したりしましたが、維新  
後は上京して土木、測量士の資格をとりました。彼が富士紡績建設にこの町で奮闘す  
るこのころは働き盛りの40歳前後でした。考えてみると250万の資本の東洋一の  
大工場の基礎の基礎の仕事にまつわるエピソードとしてとてもいい話だと私は思いま  
すがどうでしょうか？



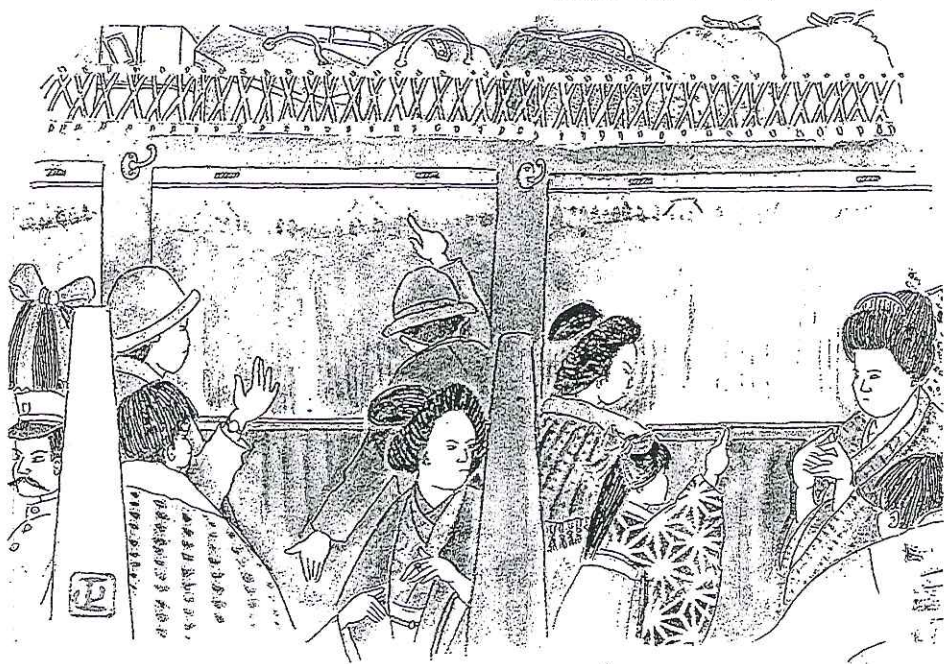
さて小山の町に変革をもたらしたものは何んといつても東海道本線開通によつてこの町の存在が多くの人たちに知られ、同時に豊かな「ただの水」も車窓から認められていったことから始まったといつても過言ではないとおもいます。寒村というにふさわしいこの町は富士、箱根、丹沢の山々に囲まれたなんの取得も無いような少い平地をいくつかの深い段丘にえぐられた形にあちらに5戸此方に7戸といった農村が点在、幕末まで狼に怯え、何度か小田原藩に被害届をするような山村でした。

## 東洋一の大工場

磯長の最新の機器により1分間の流水量38トンという1500馬力の米国モルガンスミスの原動機数台を動かせる流水量も確保して明治29年から愈々工事が始まりましたがなんとと言っても大工事の上不慣れやら思わぬ事態がおきたりしたために随分とおくれてしまいました。しかし東洋一という大工場の建設をせひ見たいという人々が遠方から集まり小山と言う名前は金太郎伝説とともに知られるようになりました。

もちろん小山町とよばれるのはずっと後のことでそのころは六合村、菅沼村と呼ばれ、人々には箱根山の山奥に点在する村々だといくらの存在でした。

高低差のある段丘地の山里では広い平地は水田として遠い昔から宝ものように伝えられた大事なものでしたがその多くが工場用地として買い上げられました。それがそれでもたりないということとでいたるところで用地の造成がおこなわれました。関東大震災ではこのことが原因でよそに比べて家屋の崩壊や土砂崩れ、道路、河川の決壊などの被害が大きかったのではないかともいわれています。また一方で土地の価格も愕くほど値上がりしました。はじめ会



社で買い上げたころは一坪(畳一枚分)75銭くらいだったものが2円50銭にと  
わずか2、3年の間の愕くような変動でした。

### 紡績の町のあけくれ

目に見えること目にはみえないことがさまざまに渦ずまくなかで明治31年の秋にはイギリスから輸入の紡機の取り付けもおわりアメリカ、モルガンスミス社の原動機3基が轟音をひびかせました。

工場内の活気は機械ばかりではありませんでした。(工女とよばれ主に東北地方から集められた数千人という女子工員で突如として町はうめられました。工場創立の中心となった人に東北に関係した人が多くいたためそうなったといわれます。

東洋一といわれた大工場は人々の喜びと期待とをあつめてスタートしましたが！  
技術不足や不理解、従業者の不心得などのため製品の生産どころか操業もままならなくなってしまうような困難にも何度も出会いながらも必死な努力によって克服しながら3、4工場と工場を拡張し製品の品質、生産も拡大していきました。この社難の先頭にたつて機構やら運営に改善を施しわずか数年で優れた製品を産出するばかりか工場の拡充さえしていった和田豊治工場長の功績はすばらしいものでした。

明治37、8年(1904)の日露戦争に勝利するころになるとそれまで、国内だけの需要だった製品を海外に輸出するようになります。ことに絹糸をアメリカに輸出しましたが最初は評判が悪く散々でした。

やがて5工場が新しく操業をはじめ、輸出の絹製品、織布などの品質改善も進み第1次世界大戦の連合軍のシャツ、国内では国産の飛行機の翼布にも使われました。建設最初の計画では絹関係はありませんでしたが富士紡績で設計製作された7台野絹織機が優れた(富士絹)を生産して世界に市場をひろめていきました。

さて、ふりかえって富士紡績小山工場のスタートから華々しい成長をま近にみた町民の感動はいかばかりだったでしょうか。そして250万という明治初期にしては思



いもよらぬ資本をもつ会社の建つ町民として人々はどんな思いでこの新しい町の日々を生きていたのでしょうか？

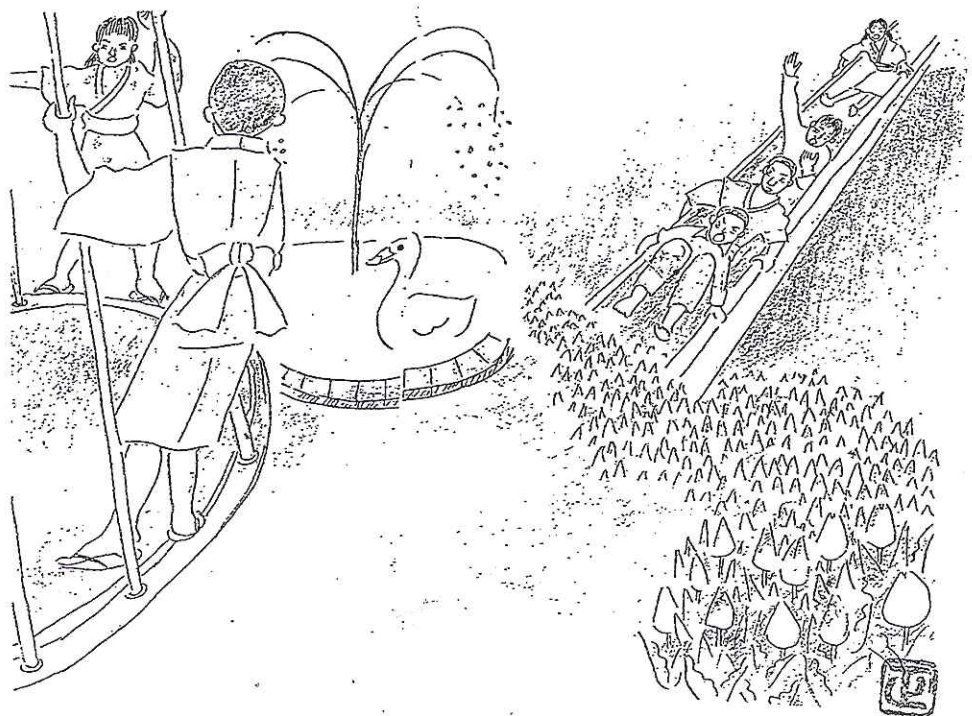
この町の突然の変革のなかでみなが一番危惧、心配したことはおびただしい数の従業員たちとその人たちの住む住宅だったと思います。当時小山は六合村と菅沼村あわせて2百戸くらいでした。会社は工場内に幾棟課の寄宿舎、町の平ら地のほかかなりの急斜地を造成して多くの社宅をたてました。社宅は数種ありましたが一般従業員のものは一棟が3間にくぎられていて広からず狭からずの3部屋に玄関と勝手をついた当時としてはかなり洒落たものでした。ただ風呂はなく近くにある銭湯を使いました。工場建設とともに小山にはいろいろと先進的なものや技術がはいつてきました。杉皮葺やわら屋根ではないトタン屋根にみなは愕きましたし、流水、井戸でしていた炊事選択も水道の便利さに愕きました。なお工場や家庭などでの水道敷設については東京すべての水道敷設の任に当たった中島銳治工学博士の指揮指導でまだ大都市ならではの近代的水道の恩恵にあずかりました。

### 町は不夜城

明治11年(1871)東京の夜を電燈が明るく照らしました。しかし地方にはまだ電燈はともってはいませんでした。

しかし、工場建設が終わるころになると夜な夜な明かりに照らしだされる景観を眺めに集まったといえますから社宅はも地論すべての住宅 また街路灯も輝きあたらしい時代の到来をしらせていました。

ちなみに明治38年から始まる第3工場には電力の活躍が大きく水力から愈々電力の時代に変わることが判ります。思えば須川の水でうなりをたてていた



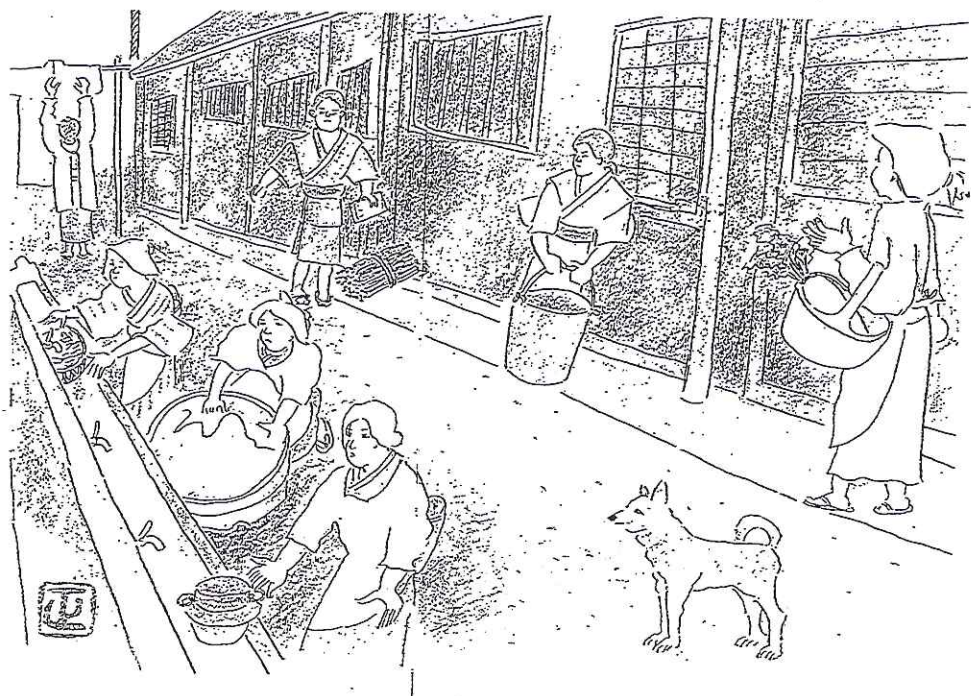
モルガンスミスにも世代交代のときがきました。水力から電力の時代です。工場では発電の好適地を確保して発電事業にも活躍しました。明治40年ころでその調整池として阿多野貯水が作られました。

### 医療の夜明け

従業員のなかには慣れな土地で、慣れない仕事で身体を壊す人が少なくありませんでした。また維新ころから世界的に結核が広がり、わが国も大きな問題になっていました。わけても紡績工場のような埃の多い所は危険だとささやかれていました。明治の終わるころ会社は本格的な病院の建設にかかります。今までの療養施設とは全く違った本格的な病院です。沼津まで行かなくては受けられなかったような手術も行われ従業員は勿論誰もが恩恵を受けることができようになりました。そして大問題だった結核についても町をあげて対処していきました。ツベルクリン接種などもおそらくよそでは何処でも行われていなかったころ此処では既に行われていたようです。

明治26年、ドイツ留学からかえった北里柴三郎は伝染病研究所を建てようとしてすが彼に対する周囲の見る目は冷たく立てることが出来ない状態でした。それを森村と福沢が、土地、医療器具のすべてを購入して大きな支援をしました。森村と富士紡績、そしてまた北里と不思議なえにしでつながりますが、きっと富士紡病院建設にも親友としての北里の貢献が大きかったと思います。前記したように太平洋戦争の終わりまで小山の人々はこの病院のおがげで多数の人が有難い恩恵をうけました。

およそ、流行とか文化とかには関係のなかった箱根山の山奥に忘れられるごとくにあった小山が一夜の夢のような変革には誰もが愕きました。



住宅 電気 水道 道路

病院などの生活面の整備

拡充がこの町の姿を変えて

いきました。工場も職員9

33人従業員27152人

という数を数えるまでにな

り大正元年小山町としての

誕生を見る事となりました。

列車もとくに朝夕は小山、

東京直通の便があり本社通

いもたやすくまた一般人に

とつても東京は文化圏となり

ました。またそうしたことも

あつて小山にも新しいスポー

ツとして物珍しいテニスコートや競技施設としての本格的なグラウンドやみんなのたの

しめるプールなども作られ従業員のみならず町民も利用することができました。グラ

ントでは秋になると工場上げての大運動会が行われましたが終日あたりの山々を揺る

がすような応援にも熱のあがる行事でした。一般町民との融和を運営の根底にしてき

た工場はこうした施設にいとわず資金を投じハイレベルなものをと考えていました。

クランドを一部とした公園化も考えられました。それぞれ工場内にもそれなりの庭園

があつて殺風景になりがちな環境に注意を払っていた富士紡でした。グラウンド横には

珍しい遊園地の一角もありました。長い長い滑り台、目の回る回旋塔 大噴水の池に

はボートと子供の天国でした。なおこの公園の設計工事は近年ふたたび有名となつて

いる日比谷公園の設計工事に当たった当時東京公園課長井下清だったということはある

まり知られていません。のちに東京向島から和田工場長の邸宅が移築され文化。親睦

のばとしておおいに利用され、現在なおこの場に立って「小山に富士紡ありき」と百

年の偉業を誇っています。



完